

水稻育苗箱用殺虫殺菌剤

スタウトダントツ[®]

箱粒剤

病害虫の侵入を許さぬ強固な守り



適用拡大
高密度は種に
対応

移植水稻、湛水直播水稻の
どちらでも使用できます!!



いもち病

白葉枯病

イネミズゾウムシ

イネドロオイムシ

ツマグロヨコバイ

セジロウンカ



スタウトダントツ[®] 箱粒剤

特長

- ① いもち病と水稲主要害虫に優れた効果
- ② は種前(床土混和)から移植時まで使用可能
- ③ 移植時側条施用が可能(高密度は種移植栽培にも対応)

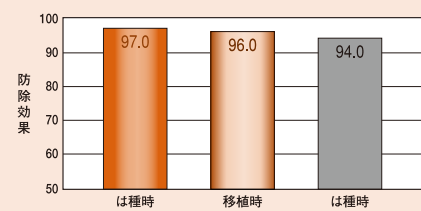
適用病虫害および使用方法

作物名	適用病虫害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イネミズソウムシ イネドロオウムシ	1kg/10a	移植時		側条施用	4回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
湛水直播水稲			は種時		は種同時 施薬機を用いて土中 施用する	4回以内 (は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
稲(育苗箱)	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病 いもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)、内穎褐変病 イネミズソウムシ、イネドロオウムシ ウンカ類、ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ、ニカメイチュウ イネヒメハモグリバエ	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g 高密度には種する場合は1kg/10a 【育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50~100g】	は種前	1回	育苗箱の 床土又は 覆土に 均一に 混和する	4回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
	いもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)、内穎褐変病 イネミズソウムシ、イネドロオウムシ ウンカ類、ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ、ニカメイチュウ イネヒメハモグリバエ	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g 高密度には種する場合は1kg/10a 【育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50~100g】	は種時 (覆土前) ~ 移植当日		育苗箱の 上から 均一に 散布する	4回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g 高密度には種する場合は1kg/10a 【育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50~100g】	は種時 (覆土前)				

2021年11月現在の登録内容(太字は2021年10月27日適用拡大)

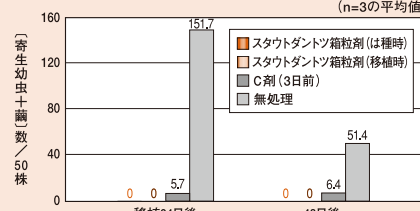
試験成績

■いもち病(葉いもち) 2006年 岡山県農林水産総合センター



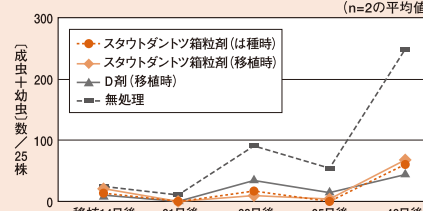
品種:関東90号 は種日:5月26日 移植日:6月14日 発生状況:葉いもち/多発生(接種)
調査方法:8月1日に計60株について全病斑数を調査

■イネドロオウムシ 2005年 青森県産業技術センター (n=3の平均値)



品種:ゆめあかり は種日:4月20日 移植日:5月24日 発生状況:中発生
調査方法:計150株について幼虫数及び蛹数を調査

■セジロウンカ 2006年 山口県農林総合技術センター (n=2の平均値)



品種:ヒノヒカリ は種日:5月30日 移植日:6月22日 発生状況:中発生
調査方法:計50株について成虫・幼虫数を見取り調査

◆注意事項

＜効果・被害等の注意＞

- 本剤を床土または覆土に混和する場合、処理後速やかに使用してください。また、本剤を処理した床土または覆土を放置しないでください。
- 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植してください。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾粉として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整してください。
- 側条施用の場合は、粒剤が均一に散布できる施用装置を装着した田植機を使用してください。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗等には被害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 本田の整地が不十分な場合は被害を生じやすいので、代かきをしていないに行い、移植後田面が露出しないように注意してください。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないでください。

- きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布してください。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさけてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用するには、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましい。

＜安全使用上の注意＞

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 散布後は水管理に注意してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空袋・空容器は園場等に放置せず適切に処理してください。

2021年11月作成 10,300 全企画社 P3202111002